

数字で見える子ども環境

※PJ＝プロジェクト

「子どもにやさしいまちづくり（CFCC）」実践自治体。「日本の公教育を目指すまち」。子育てと教育をまちづくりの重点に置いている安平町ですが、やっていることや、やりたいことの紹介はあっても数字で実態を紹介することはあまりなかったような気がします。そこで今回は数字（データ）から子ども環境を見てみたいと思います。

小学生の人数

追分小学校、早来小学校を卒業したみなさんは、自分が小学生の頃、何クラスあったでしょうか。昭和の時代は2クラス、3クラスが当たり前

でしたが、最近は一学年一クラスが多いです。左ページの表では、安平町の人口統計データをもとに令和11年の想定人数を出してみました。早来学園は低学年が1クラス20人台になり、追分小学校は1クラス10人前後になります。

先生の人数

この人数が多いのか少ないのかは学校関係者でなければ、わからないと思います。今年度まで早来学園は統廃合加算として先生が多く配置されています。裏を返すと来年は先生が減るということです。追分小学校は児童数が100人を下回ると先生の配置定数が

少なくなるため人数が減ります。表に「非常勤講師」という欄があります。これは正規の教員が確保できず、特定の教科を非常勤講師で補っているというものです。令和5年度にみられた先生の定員を満たさないという事態は免れましたが、すべて正規教員で満たすということもできませんでした。

スポーツ・文化環境

部活動の地域移行に取り組んでいる安平町では、この4月から野球部、バレーボール部、剣道部が学校の部活動からなくなり、地域クラブとしてスタートしました。広報紙の別ページにある「あびスポーツチャー」でもたびたび紹介されているように安平町は中学生世代の部活だけを地域に移行するという考えではありません。

小学生、高校生、大人や高齢者の方もスポーツや文化を楽しむ環境をつくっていくために部活動ではないカタチをつくろうとしています。今の時点で学校の部活動の数より地域のスポーツ、文化クラブの団体数の方が多い状態です。

数字から何がわかるか

これらの数字からわかることは、少子化は間違いなく進む、先生の人数は減る、部活より地域クラブの方が多い、ということですが。裏を返せば、学校に頼った子ども環境は、限界が来るということでもあります。学校以外で子どもが育つ場を、学校と連携しながらどのようにつくっていくか。だからこそ、教育はまちづくりであり、学校だけではなく地域も含めた公教育をより良くする必要がありますのだと思います。